

日本音楽学会第70回全国大会 プログラム

大会第1日 10月19日(土)

9:00～	受付開始 大阪大学豊中キャンパス 豊中総合学館 講義室301前			
9:40～9:45	開会の辞 講義室301			
	Session A (講義室301) 司会：清水慶彦	Session B (講義室302) 司会：三島 郁	Session C (講義室401) 司会：松田 聡	Session D (講義室402) 司会：伊東信宏
9:50～10:25	A-1 西澤忠志 明治20年代における西洋音楽に 対する聴き方の変化とその思想的 背景 ——上田敏の演奏批評から——	B-1 岡野 宏 ヨハン・マッテゾンにおける音 楽的時間の組織化	C-1 大河内文恵 1765年から1830年までのドレス デンにおける翻訳オペラの役割	D-1 福田 弥 F. リストの《アッシジの聖 フランチェスコの太陽賛歌》改訂 稿の成立過程 ——ヴァイマルとライプツィヒ の筆写譜の位置づけ——
10:30～11:05	A-2 田中 涼 山田耕筰の日本語歌曲創作史の 再検討 ——歌詞と歌唱旋律の数値化と その分析——	B-2 宮内晴加 18世紀前半における転調の変遷 ——スペイン鍵盤作品の転調を 軸に——	C-2 森 佳子 《ポルティチのおし娘》から《悪 魔ロベール》へ ——グランド・オペラの創作過 程——	D-2 中原佑介 バルトーク・ペーラ《ミクロ スモス》成立におけるバルト ーク・ペーテルの役割 ——バルトーク・ペーテルのレ ッスン帳を通して——
11:10～11:45	A-3 柴田康太郎 武満徹のミュージック・コンクレ ート論と1950～60年代の前衛芸 術運動	B-3 早瀬文子 フラウト・トラヴェルソのソロ・ ソナタにおける第3オクターヴ の使用について ——G.P. テレマンのソナタ短 調 (TWV41: h4) を中心に——	C-3 館 重里沙 ハインリヒ・ボルゲスの記した マリヒャルト・ワーグナーの「意 図」 ——1876年パイロイト祝祭劇場 での《ニーベルングの指環》上 演に際する稽古手記を軸に——	D-3 今井千絵 カロール・シマノフスキ作曲『メ トープ』op.29における内容解 釈 ——ホメロス『オデュッセイア』 との関連を手掛かりに——
11:50～12:25	A-4 仲辻真帆 柴田南雄の音楽史観にかんする 一考察 ——《トリプレキシ TRIPLEX》 を主軸として——	B-4 児玉瑞穂 J. J. H. リボック著『フルート のより良い調節と取り扱いに関 する覚え書き』(1782) からみ るザクセン・ベルリン地域のフ ルートの特異性	C-4 小林佳織 J. マスネ作曲、歌劇《ラオール の王》における初演の評価につ いて ——Opinion de la presse sur le Roi de Lahore の読解から——	D-4 栗田桃子 シマノフスキのピアノ書法の変 容に関する一考察 ——《ハーフィズの愛の歌》作 品24, 26の管弦楽編曲との関連 から——
12:25～13:25	昼休み			
	Session E (講義室301) 司会：上野正章	Session F (講義室302) 司会：藤田 茂	Session G (講義室401) 司会：栗原詩子	パネル1 (講義室402) 13:25～15:25
13:25～14:00	E-1 川崎瑞穂 駒ヶ岳神社太々神楽における天 狗の舞の構造分析 ——音楽形式と演目構成に着目 して——	F-1 丸山瑤子 ベートーヴェンのピアノ三重奏 曲における弦楽器の音域設定 ——中期以降の「逆転」した音 高関係——	G-1 神竹喜重子 帝室劇場と私立歌劇場の関係性 ——リムスキー＝コルサコフと ムソルグスキーのオペラ上演を 巡って——	朝日会館と関西楽壇 ——雑誌『会館芸術』復刻から 見えてきたもの—— コーディネーター 山上揚平 パネリスト 岡野 宏 中村 仁 山上揚平 山本美紀
14:05～14:40	E-2 曾村みずき 1940年代前半における近代琵琶 楽演奏会 ——紀元2600年関連事業に注目 して——	F-2 稲田隆之 1850年代に作曲されたオペラに おけるオーケストラの動機反復 ——ヴァーグナーのベートーヴ ェン受容研究序説——	G-2 森本頼子 極東における白系ロシア人歌劇 団の活動の実態 ——1919, 21年来日の「ロシア 大歌劇団」の足跡をもとに——	
14:45～15:20	E-3 遠藤美奈 アメリカ統治下の沖縄における 本土式盆踊りの実践をめぐって ——「琉米文化会館」「将校ク ラブ」「沖縄全島エイサーコン クール」を中心に——	F-3 高松佑介 フランツ・シューベルトの緩徐 楽章における変奏技法	G-3 菊間史織 楽器をキャラクターとして見せ る ——《ピーターと狼》とアニメ の時代——	
15:25～16:00	E-4 玉村 恭 隠れた能楽師たち ——佐渡市某所の音楽作り——	F-4 山口真季子 「社会主義者」ヘルマン・シェ ルヘンにとつてのシューベルト	G-4 宮川 渉 K. サーリアホ《光の弧》にお けるデッサンの役割 ——スケッチの分析を中心に——	
16:15～18:00	総会 講義室402			
19:00～21:00	情報交換会 大阪大学内カフェテリア「らふおれ」			

大会第2日 10月20日(日)

9:00～ 受付開始 大阪大学豊中キャンパス 豊中総合学館 講義室301前				
	Session H (講義室301) 司会：井口淳子	Session I (講義室302) 司会：大愛崇晴	Session J (講義室401) 司会：椎名亮輔	Session K (講義室402) 司会：筒井はる香
9:50～10:25	H-1 早坂牧子 英国における三浦環 ——1914～15年の演奏活動と受容の再検討——	I-1 吉川 文 中世の音組織とアルファベット の音名表記 ——フクバルドの『音楽論 Musica』における図表とその 伝承過程の検討——	J-1 白石悠里子 フォーレのフォーマル・ダイナ ミクス分析をめぐる一試論 ——5つのピアノ室内楽曲(2 つの四重奏曲, 2つの五重奏曲, 三重奏曲)を対象に——	K-1 石原勇太郎 『キッター練習帳』における対 抗調領域の調設定 ——ロンド学習、およびソナタ 学習に現れる作品の分析を通し て——
10:30～11:05	H-2 武石みどり 映画館における洋楽合奏 ——大正～昭和初期の楽士とレ パトリー——	I-2 宮崎晴代 中世における歌唱実践の初期資 料について ——ソルミゼーションの実践方 法を探る——	J-2 釘宮貴子 20世紀初期ドイツ・オーストリ アにおける日本語の翻訳と歌曲 ——パウル・エンダリク『日 本の短編小説と詩』とフェリッ クス・ワインガルトナー『日本 の歌』Op.45——	K-2 田川真由 ヨーゼフ・ガブリエル・ラインベル ガーのオルガン協奏曲の音楽史にお ける意義
11:10～11:45	H-3 藤野純也 戦後日本の電子楽器業界の形成 とその様相 ——電子オルガンからシンセサ イザーへ——	I-3 中島康光 ドデカコルドンと調和概論 ——二重対位法に視点を置いた 比較——	J-3 山岸佳愛 シェーンベルクの中期12音作品 における「和音」の意味 ——《管弦楽のための変奏曲》 と《モーゼとアロン》の比較分 析を通じて——	K-3 上田泰史 19世紀フランスにおける「ジ ュ・バルレ」のイメージ形成に 関する歴史的考察
11:50～12:25	H-4 小味遼彦之 指揮者、朝比奈隆のレパトリー ——再考——	I-4 関本業穂子 16～18世紀のフランス語音楽理 論書における8モードの用語法 と概念について	J-4 竹内茂夫 シェーンベルク：〈ワルシャワ の生き残り〉作品46のヘブライ 語男声合唱部分の発音と歌詞	K-4 太田峰夫 ヨーゼフ・ヨアヒムにおけるポ ルトメントの概念 ——声楽の表現手法の器楽への 取り込みについての一考察——
12:25～13:25	昼休み			
	Session L (講義室301) 司会：山本美紀	Session M (講義室302) 司会：池上健一郎	Session N (講義室401) 司会：高岡智子	パネル2 (講義室402) 13:25～15:25
13:25～14:00	L-1 梶野絵奈 女優・川上貞奴の活動にみる子 どもへの音楽の啓蒙 ——お伽芝居『浮かれ胡弓』か ら川上児童楽劇園まで——	M-1 村田圭代 J.S. バッハのケーテン時代ま での三つの旋律の転回	N-1 佐野旭司 「創造的音楽家協会」の演奏会 における作品の様式と評価につ いて ——室内楽曲を中心に——	リユック・フェラーリ生誕90周 年記念シンポジウム 「フェラーリの創作活動の多面性 —その検証と現在時への可能性—」 コーディネーター 椎名亮輔 パネリスト クリストフ・シャルル 鈴木治行 椎名亮輔
14:05～14:40	L-2 平尾佳子 南満州教育会教科書編輯部「日 本人学校用唱歌科教科書」(1923 ～1937)の分析と受容の調査	M-2 高橋 舞 「ピアノによるバッハ像」の生 成と展開 ——「実用版楽譜」における演 奏表現の分析——	N-2 大矢未来 第二次世界大戦前後のミュンヘ ンにおける《ばらの騎士》演出 の展開	
14:45～15:20	L-3 山本耕平 文部省と民間教育研究団体の相 克に見る戦後音楽教育 ——家永・教科書裁判を手がかり として——	M-3 初山陽子 ヘンデル《陽気の人、ふさぎの 人、温和な人》における「陽気 の人」と「ふさぎの人」の対比 表現 ——気質と発音それぞれの視点 から——	N-3 友利 修 「第1回 ヨーロッパ労働者音 楽・合唱オリンピック」 (1935年)の開催とその受容 ——開催都市ストラプールの 同時代資料に基づく考察——	
15:25～16:00	L-4 佐藤慶治 NHK 児童音楽番組「みんなの うた」の形成過程に関する歴史 社会学的研究 ——「ゼッキノー・ドーロ」と の比較分析を通じて——	M-4 田中伸明 フランツ・ベンダ(1709～1786) の「原資料」 ——自筆譜および彼の周辺で成 立した筆写譜に関する報告——	N-4 和田ちはる 「音楽における愚かさ」をめぐ るH. アイスラーの音楽論 ——B. プレヒト、Th. W. アド ルノの思想との関係を手がかり とした解釈の試み——	
16:05～16:10	閉会の辞 講義室301			